

研究テーマを 教育現場に求め続ける。



コミュニケーション学部教授
馮 富榮 (フォン・フーロン)

【学歴】
1991年3月 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程修了
1994年3月 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程満期退学
1995年9月 博士(教育心理学) (名古屋大学第3号)

【職歴】
1996年4月 愛知文教女子短期大学幼児教育学科講師
1997年4月 愛知淑徳大学文学部講師
1998年4月 愛知淑徳大学文学部助教授
2000年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部助教授
2003年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部教授

馮先生は天津外国語大学で日本語を専攻。日本語講師をしていた1986年、教員留学生として来日し、愛知淑徳高校で1年間過ごしました。その後、名古屋大学で博士号を取得し、97年から本学で中国語を教えています。しかし市販の教材に満足せず、「コミュニケーション学部が創設された2000年から自作のメディア教材を作成。現在13教科となった教材は、他大学からもレベルが高い」と評判です。この教材を用いた講義に加え、授業では毎回、単語テストを実施、宿題は学内LANを通して提出など、学生は地道な積み重ねで学習。その成果は、3年生でHSK(中国語能力検定試験)9級合格、全国的な中国語コンテスト第2位(17参照)などに表れています。今後は、「学生の会話能力をさらに向上させる」と、学生のモチベーションを高いレベルで維持するための方法を見つけないと目標を語っていただきました。



- 【馮先生の主要著作リスト】 ○編著
- 「中国語新幹線 初級表現(上下)」(北京語言大学出版社)2008年
 - 「中国語新幹線 中級表現(上下)」(北京語言大学出版社)2008年
 - 「中国語新幹線 商務表現(上下)」(北京語言大学出版社)2008年
 - 「SAY YOU, Say Me 邻家之眼(隣家之眼)」(南開大学出版社)2005年
 - 「国際日語能力测试(1,2級)最新听力辅导(国际日語能力测试(1,2級)最新聴力輔導)」(南開大学出版社)2005年
 - 「国際日語能力测试(3,4級)最新听力辅导(南開大学出版社)2005年

名

古屋大学大学院の修士課程と博士課程では、一貫して「中国人の日本語学習における母語(中国語)の影響」というテーマに取り組んでおりました。というのも、来日して日本語教師をしていたとき、学生の作文に中国語による間違いが多だけでなく、日本語の教員としての自分の日本語にも母語による間違いが多かったことに気づいたからで、この母語の影響を心理学的に解明することができたら、また日本語の教育現場に戻ったとき、自分の研究結果を活かすことができるのではないかと思います。

6年間半にわたって研究した結果、構文文法の学習における母語の影響があること、その影響は簡単に除去できず、上級レベルの学習者さえもその影響を受けていることを

解明できました。その結果を「日本語学習における母語の影響」という本にまとめ、文部科学省の助成金で出版することができました。

愛

知淑徳大学に来てから、日本語の教員ではなく中国語教員になりました。最初は日本人の中国語学習における母語(日本語)の影響」というテーマに取り組んでいましたが、コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科ができたのをきっかけに、「e-Learningによる中国語教育」という研究テーマに興味を持つようになりました。というのも将来、従来の教室での教育方法は情報メディアを利用する教育方法へと変わり、少なくとも部分的に変わっていくだろうと信じ、またこんな便利な情報手段を教育現場に利用しないのはもったいないと思っただからです。

10年間にわたって取り組んだ結果、オリジナル「e-Learning」による中国語教育システムを構築でき、初級教材の「中国語入門」から高級レベルの教材「中国現代文学」まで、計13教科を他の教員と協力して開発しました。その結果、学生が以前は取れなかったHSK9級という成績を3年次で取れるようになり、2年次でもHSK7級という素晴らしい成績が取れるようになりました。優秀な学生を育てられたことは何よりも嬉しいことです。これがまた研究の励みにもなっております。